

## 2026\_0410「池袋から見える富士山剣ヶ峰」日々の理科 4261号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

夕暮れの池袋東武百貨店上層階から西方を望むと、遠く関東平野の彼方に、淡い大気に溶け込むように富士山のシルエットが浮かび上がります。本画像はその山頂部、特に火口壁付近の稜線形をよく捉えた一枚です。輪郭は一見なだらかな円錐に見えますが、注意深く観察すると、山頂は単純な一点の頂ではなく、複数のピークからなる非対称な稜線として認識できます。

まず右端には、幅広く丸みを帯びて張り出す顕著なピークが見えます。これは火口縁北西部に位置する白山岳です。標高は約 3756m で、最高点ではないものの、その広がりや形状のために、東京側からは最も目立つ“山頂らしい”峰として視認されます。一方、画面中央よりやや左、全体の左からおおよそ3分の1強の位置には、わずかに突出した小ピークが確認できます。これが富士山の最高点、剣ヶ峰 (3776m) です。剣ヶ峰は火口縁南西部に位置し、その突出は鋭いものの局所的であるため、視覚的には白山岳より控えめに見える特徴があります。

両者の間には浅い鞍部が見られ、これは火口内部の凹地に対応する部分です。富士山の山頂火口は直径約 800m の円形をなしますが、池袋からの視線はその円周を斜めにかすめるため、観察される稜線は火口縁の一部が連続した線として現れ、完全な円環構造としては見えません。方位関係としては、池袋からは南が左、北が右に対応し、この配置も地形図とよく一致します。

この写真は、富士山を単なる円錐ではなく火口地形をもつ成層火山として理解する上で示唆に富んでいます。そして何より特筆すべきは、池袋の一角から、日本の国土の最高標高点である剣ヶ峰を確かに視認できるという事実です。

